序論　本書の概要と方法……7
一　出版文化研究の方法……8
二　第一部の概要……11
三　第二部の概要……14
第一部　東京稗史出版社研究
第一章　東京稗史出版社の足跡……23
一　東京稗史出版社の構成員……24
二　東京稗史出版社の出版物……28
三　東京稗史出版社の予約出版方法……34
四　東京稗史出版社の地盤……39
第二章　東京稗史出版社という印刷所……54
一　美麗な製本……55
二　差異化の指標……57
三　印刷所を兼業するということ……62
第三章　活字翻刻本をめぐる思惑……70
一　予約出版と活字翻刻本……71
二　「稗史小説」をめぐる議論……73

二　活字翻刻本の棲み分け……78
第四章　東京稗史出版社における『世路日記』の位置づけ……85
一　『世路日記』の背後……86
二　信乃と浜路、菊雄とタケ……89
三　信乃と菊雄の人物造形……94
四　浜路とタケの人物造形……99
第五章　東京稗史出版社の地平　『牡丹燈籠』とその周辺……107
一　小説の文体と『牡丹燈籠』……109
二　言文一致と『牡丹燈籠』……112
三　ふたたび東京稗史出版社の営為について　『東京稗史出版社と文学』……114

第二部　出版研究各論

第一章　銅版草双紙考……125
一　銅版草双紙の生産現場……128
二　銅版草双紙の発生……135
三　銅版草双紙の終焉……140
附　銅版草双紙書目年表……154
第二章　予約と信用（上）――集成館の予約者名簿『一話一言月刊同盟現員表』から……194
一　予約出版という方法……195

二　集成館と『一話一言』……197
三　『現員表』翻刻……202
四　人名注……220
第三章　予約と信用（下）――予約出版と詐欺取財事件――……237
一　徳盛館の詐欺取財事件……238
二　予約出版、濡手で粟の銭まふけ……242
三　身近な方法、身近な詐欺……247
第四章　文栄堂の出版環境（上）……書籍作製費用の実際――……254
一　文栄堂略史……256
二　書籍製作の実際（1）　標注と題字……258
三　書籍製作の実際（2）　活版印刷料、石版印刷料……265
四　書籍製作の実際（3）　紙代……271
第五章　文栄堂の出版環境（下）――書籍の仕入れ・卸し・小売り――……278
一　品揃え……279
二　仕入れ……287
三　卸し……295
第六章　明治初期石川県における新聞出版（上）――吉本次郎兵衛の足跡――……300
一　『開化新聞』から『石川新聞』へ……304
二　次郎兵衛、印刷御用となる……306

三　内部組織の再編成……316
第七章　明治初期石川県における新聞出版（下）
一　『開化新聞』『石川新聞』の出版史的考察……320
二　『開化新聞』『石川新聞』の発行部数……321
三　流通する新聞、購読する人びと……329
四　新聞享受の場……337
あとがき……353
索引（出版元・人名、書名）……巻末